



# アリと キリギリス

新しいエンディング！

－松岡とも子

ある小学校で、一年生の子供たちに、絵を描きながら自分の好きなように物語の結末を書かせるという道徳の授業をしていました。その日の課題は、有名なイソップ物語「アリとキリギリス」です。アリは冬に備えて一生懸命働いて食べ物を集めるけれど、キリギリスは夏の間、ヴァイオリンを弾いて楽しく過ごすという話です。寒い冬がやってきた時、勤勉なアリには必要なものがそろっていたのですが、キリギリスは飢え死に寸前でした。

6歳の子供たちは、キリギリスがアリに助けを求める箇所の後、自分で好きなように話の終わり方を考えるようにと言われました。一年生の約半分は、キリギリスは助けを受けるには値しないので、アリは何もあげないという一般論を取りました。残りの半分の子供たちは、アリがキリギリスに教訓を学ぶようにと話して、食べ物の半分を分けてあげるといふうに変えました。

すると、一人の少年が立ち上がり、自分の考えた終わり方を話し始めました。

「ある日、キリギリスはアリのところへ食べ物を下さいとお願いし

に行きました。すると、アリはすぐに、全部の食べ物をキリギリスにあげました。半分とか、大部分とかではなく、全部をあげました。」

少年の話はそこで終わりではありません。彼は元気よく続けました。

「それで、アリは食べ物がなくなって死んでしまいました。キリギリスは、アリが死んでしまったことをとても悲しみ、アリが自分を救ってくれたことをみんなに話しました。それからキリギリスは、良いキリギリスになりました。」

心が与えるものは、  
失われることがない。  
それは、永遠に相手の  
心の中に取っておかれる。

私はこの結末を聞いて、イエスが十字架に架けられた時のことを思いました。イエスは私たち皆が永遠の命を得られるようにと、ご自分の命を犠牲にされたのです。イエスは、私たちに対して生半可ではありませんでした。私たちのことを「受けるに値しない者」とは言わずに、私たちが「良く」なるのを学べるように、自分のすべてを与えて下さったのです。そ

れは、6歳の子供が書き替えた物語の中で、アリがキリギリスのために死んだのと同じでした。

私は思いました。私たちにとっても、そこで話が終わってはいけなと。キリギリスの生き方が変わったように、私たちも感謝を持って、イエスの見本に習い、彼が私たちのためにして下さった素晴らしいことを周りの人に伝えなくてはならないのです。

聖書には、こんな言葉があります。「一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。」そしてこの後に、ほろ苦い約束が続くのです。「しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。」(ヨハネ 12:24)

この約束こそ、すべてを価値あるものとしてくれます。

